

再評価地区

農村総合整備事業

「岸和田丘陵地区」

大阪府農業振興地域整備審議会

令和元年8月26日

泉州農と緑の総合事務所 耕地課

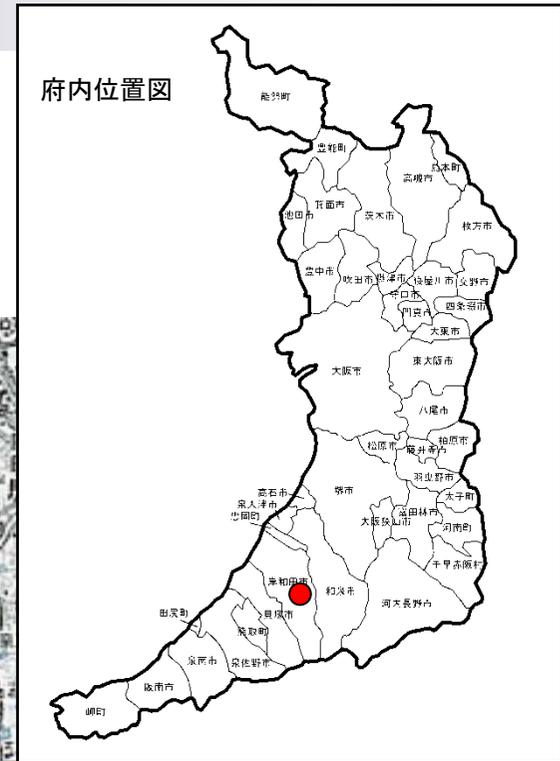
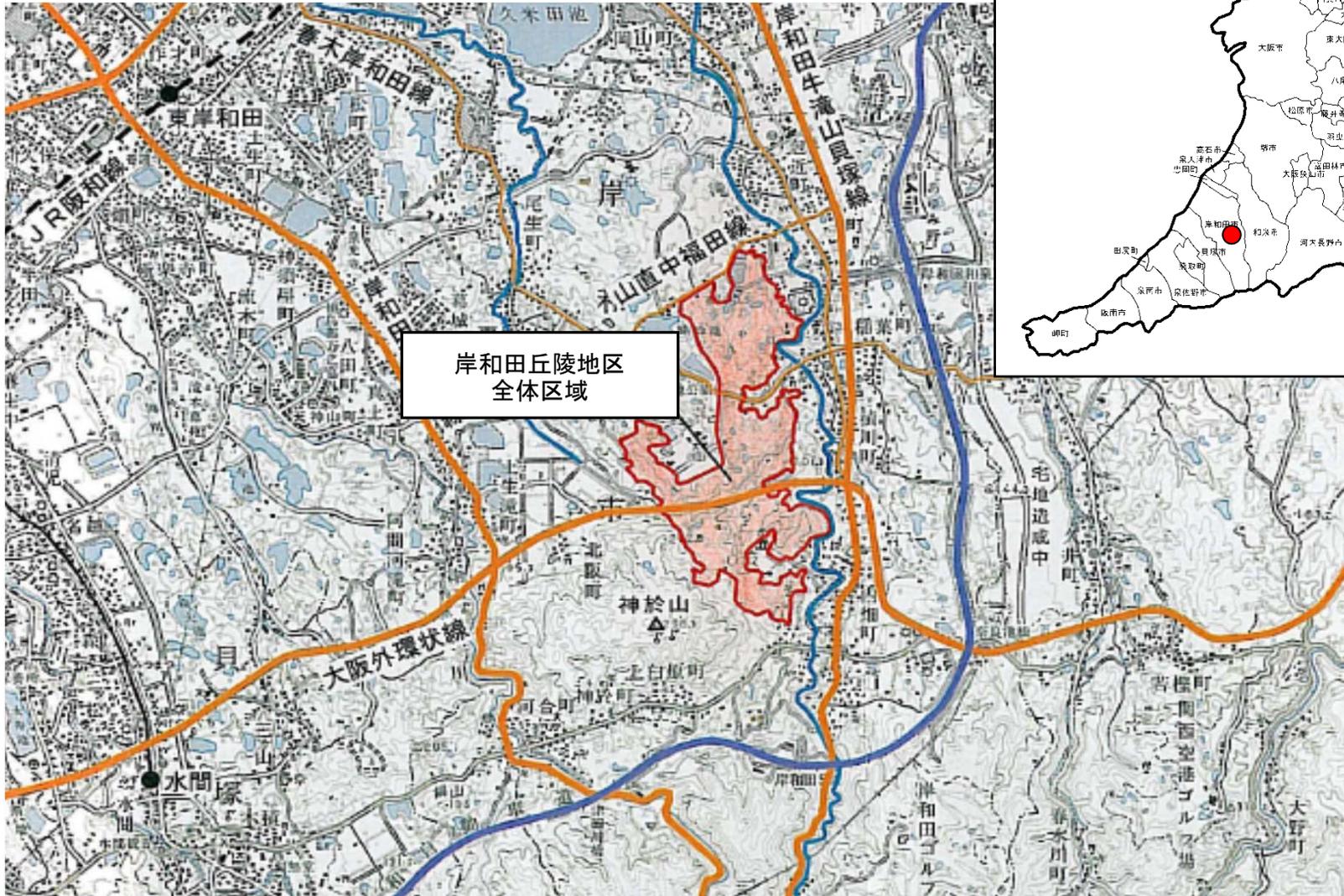


## ○事業の経過

- 平成24年度 建設事業事前評価
- 平成25年度 土地改良事業着手
- 令和元年度（平成31年度）  
建設事業再評価  
「事業計画又は総事業費の大幅な変更」
  - ・ 総事業費が3割以上増減する場合に該当

# ○事業箇所

大阪府岸和田市稲葉町、山直中町、内畑町



# ○事業開始時

点在する営農継続地権者を集約するため、岸和田市が「農業振興整備に関する法律」に基づく交換分合事業を実施



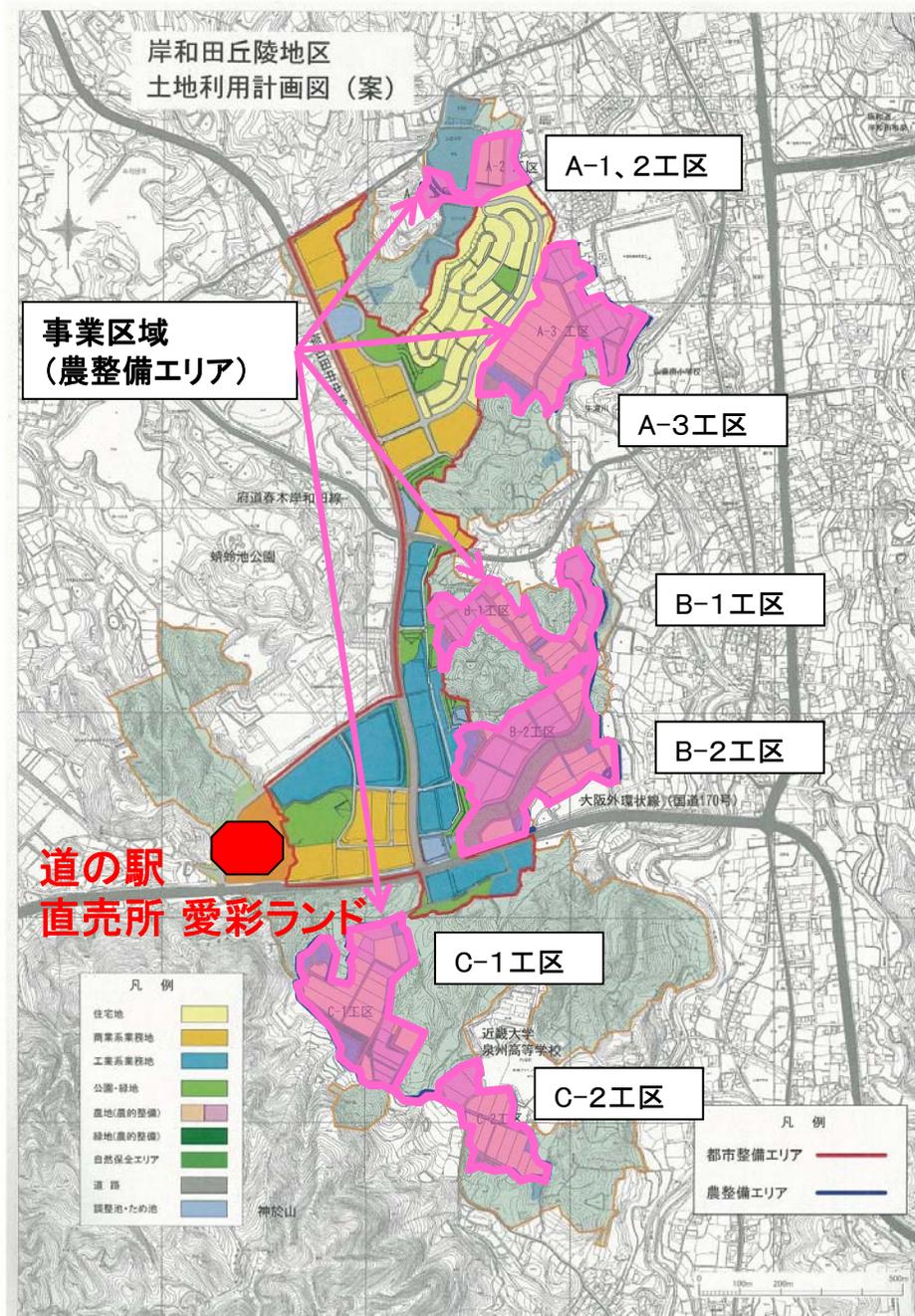
- 事業手法: 土地改良事業
- 事業主体: 大阪府
- 事業面積: 約34ha(内農地面積約21ha)
- 事業期間: 平成25年度～平成31年度
- 管理主体: 岸和田丘陵土地改良区

## <参考>

### <整備内容>

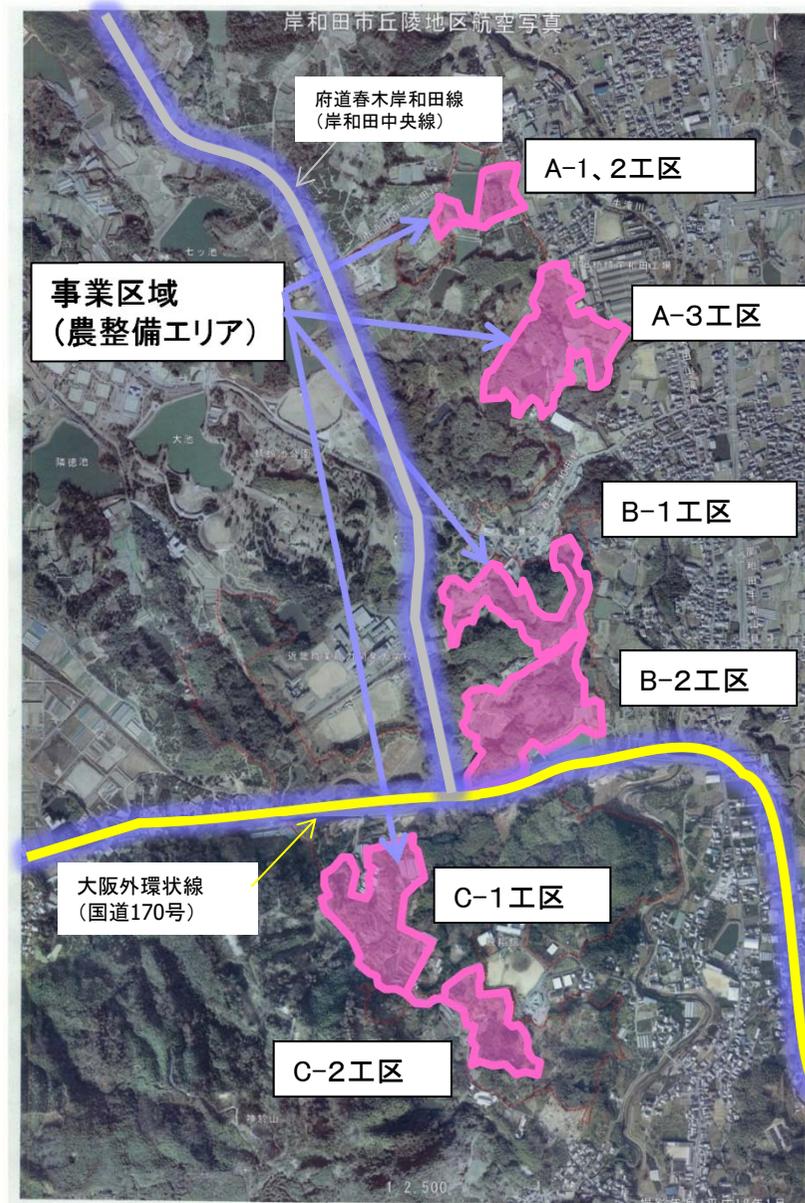
都市整備エリア: 土地区画整理事業  
 事業面積: 約47ha  
 農整備エリア: 土地改良事業 他  
 事業面積: 約34ha  
 自然保全エリア: 面積: 約73ha  
 合計面積 約154ha

道の駅愛彩ランド: 都計法による開発事業  
 事業面積: 約5ha



## ○事業目的

- 本地区では、本事業の実施により、高収益型農業の実現を積極的に進めるとともに、隣接の「都市整備エリア」との連携による、都市と農の交流促進を図る。
- 大消費地に隣接する強みを生かした、「強い農業づくり」を進め、周辺地域社会の発展・活性化に資する、大阪府の農業振興のモデル地区を目指す。



事業開始時航空写真

# ○事業計画変更の概要

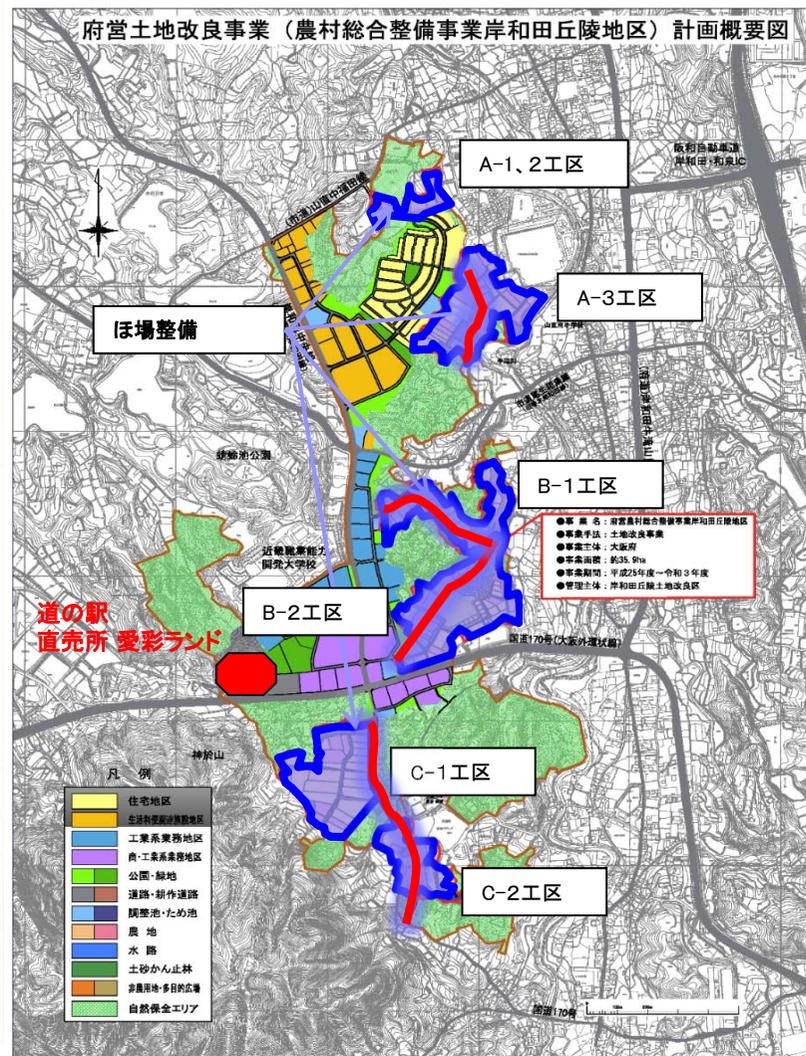
<現計画>

- ほ場整備 34.1ha
  - ・整地工 21.1ha
  - ・道路工 4.7km
  - ・用水路工 7.6km
  - ・排水路工 3.8km
- 集落道整備 1.8km
  
- 全体事業費：11.8億円
  - ほ場整備：9.8億円
  - 集落道路：2.0億円
  
- 事業期間  
平成25年度～平成31年度

<変更計画案>

- ほ場整備 35.9ha
  - ・整地工 21.7ha
  - ・道路工 4.5km
  - ・用水路工 8.2km
  - ・排水路工 5.4km
- 集落道整備 2.1km
  
- 全体事業費：17.5億円
  - ほ場整備：15.1億円
  - 集落道路：2.4億円
  
- 事業期間  
平成25年度～令和3年度

[変更計画案]



総事業費の変更

17.5億円 / 11.8億円 = 1.48 約5割増

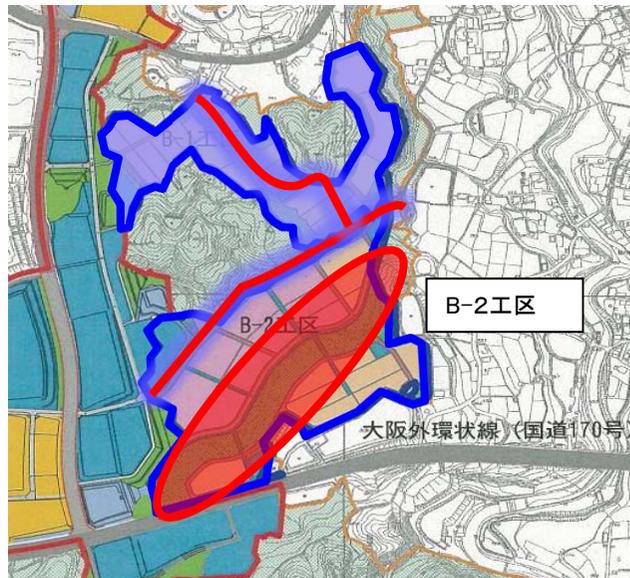
## 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
①	幹線排水路工の整備による増	1.7億円増
②	調整池施工時の湧水対策等による増	1.5億円増
③	農地の高低差抑制に伴う運土量の増	0.9億円増
④	C-1工区の地区拡大による増	0.5億円増
⑤	集落道路線変更等による増	0.4億円増
⑥	物価変動等(労務資材費、消費税)による自然増等	0.7億円増

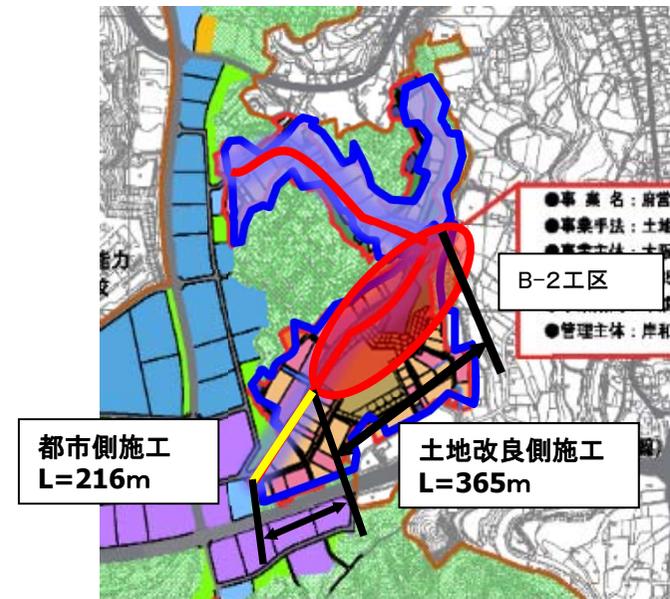
# 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
①	幹線排水路工の整備による増	1.7億円増

〔現計画〕



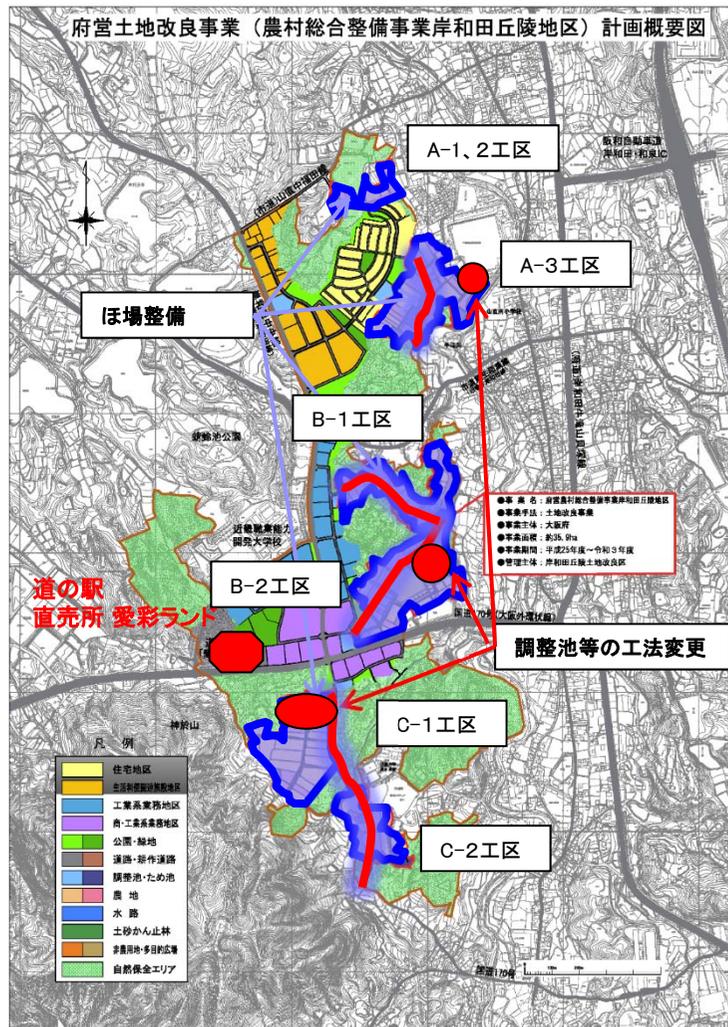
〔変更計画案〕



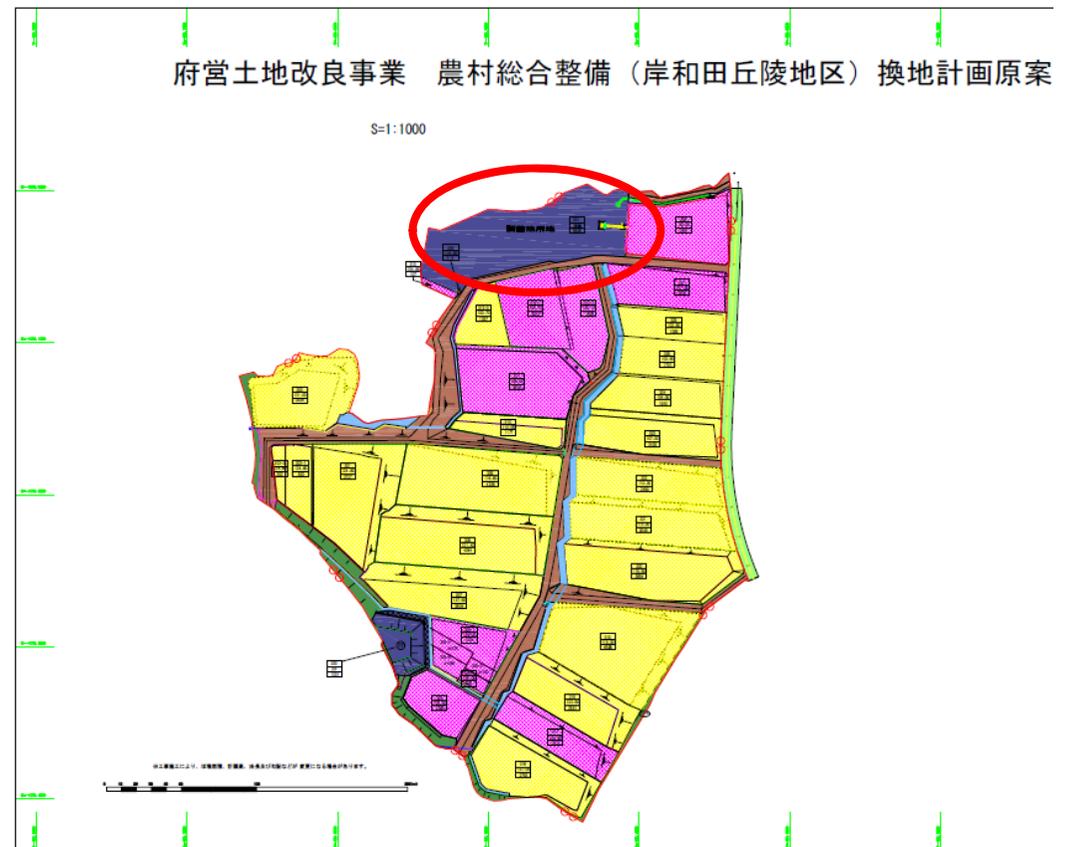
・当初は、都市側の排水を受けていることから、本事業の対象外としたが、農業用排水の流入もあり、国と協議調整を行った結果、土地改良事業として認められ、幹線排水路工 L=365mの整備を行い、1.7億円増となった。

# 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
②	調整池施工時の湧水対策等による増	1.5億円増



## C-1工区調整池拡大図

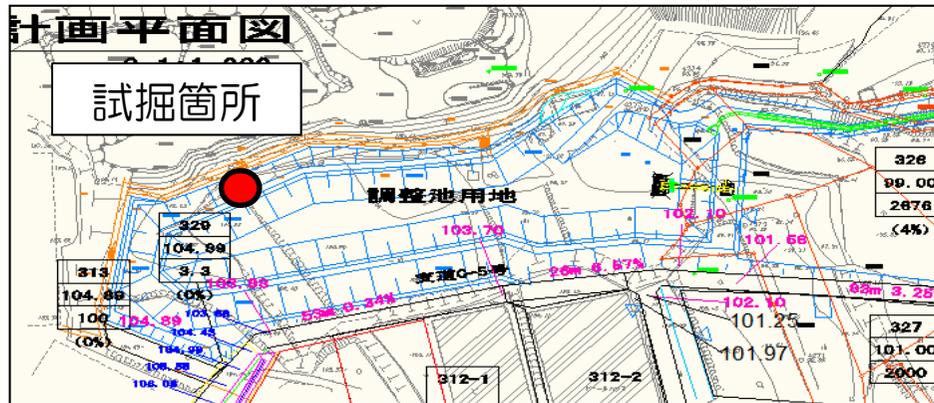


## 変更内容

増減額

### ② 調整池施工時の湧水対策等による増

1.5億円増



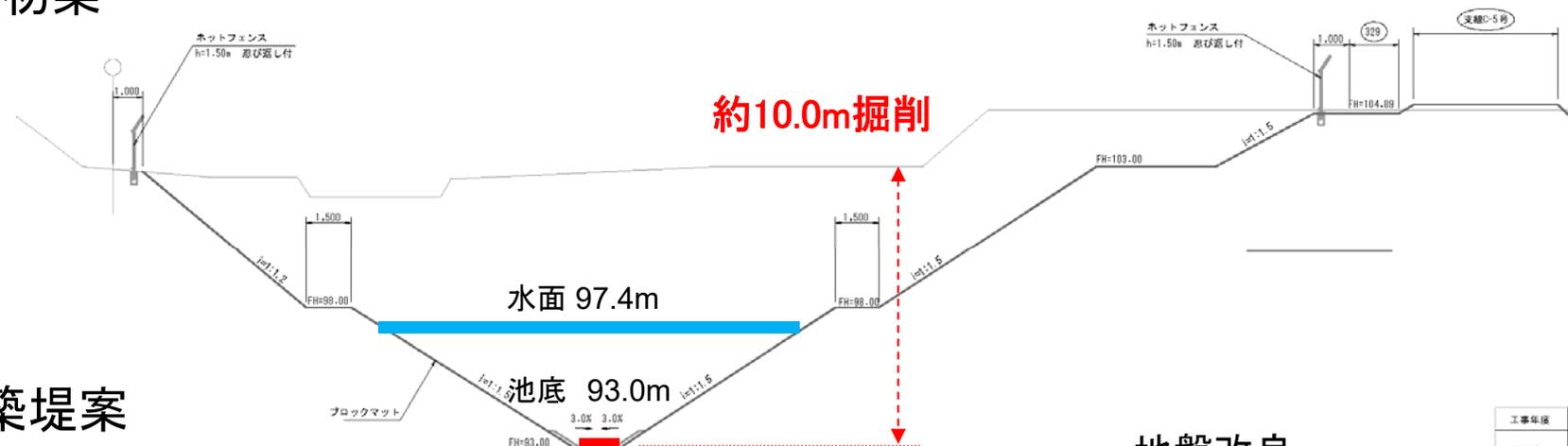
地盤改良  
(パワーブレンダー工法)



- ・湧水等が確認されたことから、地盤にセメント系固化材を混合する工法等に変更したことにより事業費が0.4億円増となった。
- 設計時に、近傍で地質調査を1箇所実施し、湧水等の確認はできなかったが、施工に着手したところ湧水等が確認された。
- これは、地層の形状が複雑であったり、地下水動向の変動、地下水位の季節変動により、調査時には確認できなかったためである。

	変更内容	増減額
②	調整池施工時の湧水対策等による増	1.5億円増

①当初案



②築堤案

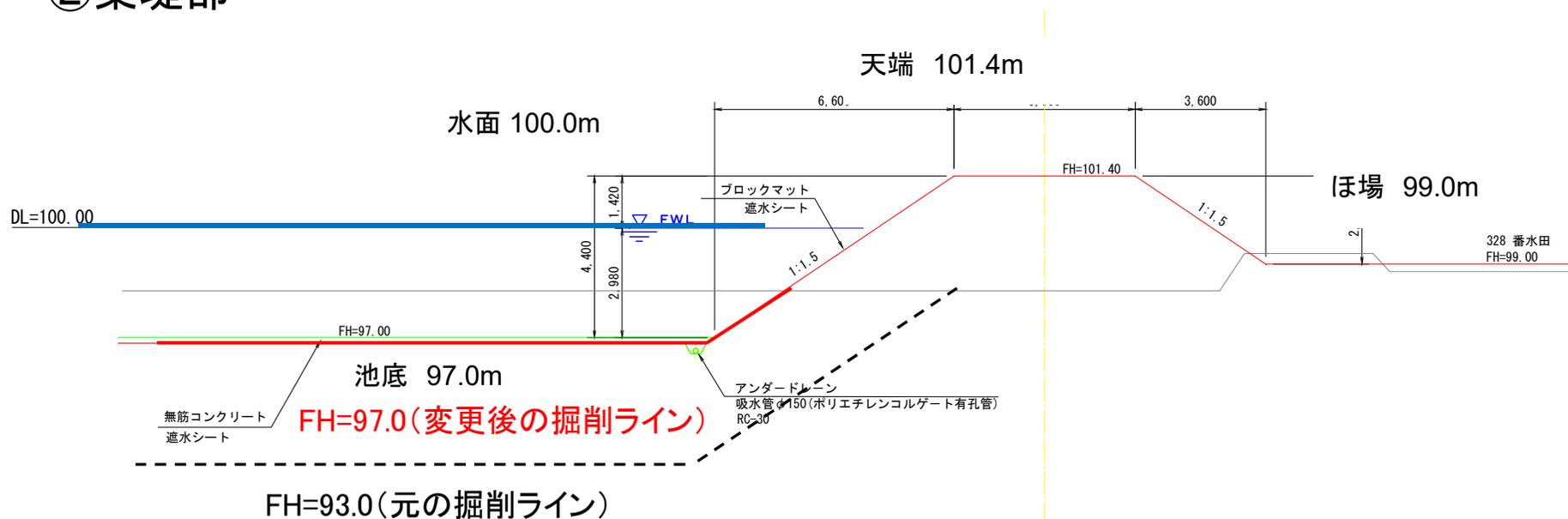


工事年度	
工事名	
名称	
備考	

湧水対策等として、全面掘込み式から一部築堤式の工法変更等を行った結果、0.4億円増となった

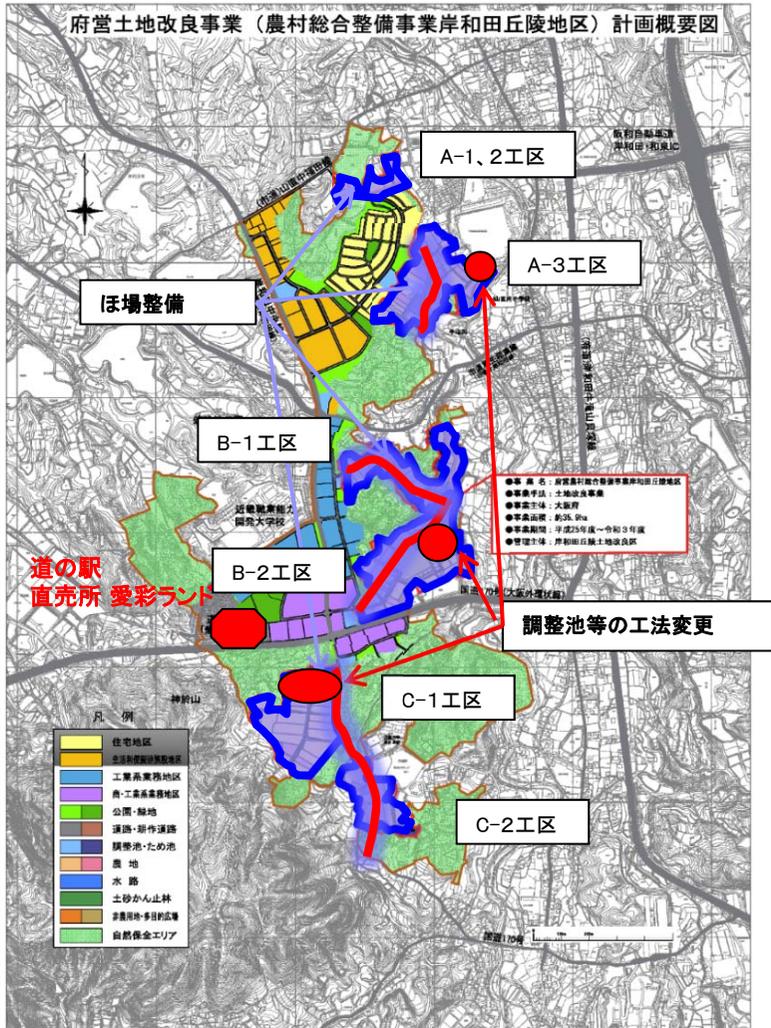
	変更内容	増減額
②	調整池施工時の湧水対策等による増	1.5億円増

## ②築堤部



湧水対策等として、全面掘込み式から一部築堤式の工法変更等を行った結果、0.4億円増となった

	変更内容	増減額
②	調整池施工時の湧水対策等による増	1.5億円増



・併せて、C-1工区の調整池施工を契機に、A-3、B-2工区において地質調査を行ったところ、工法等の変更を行ったことによる増

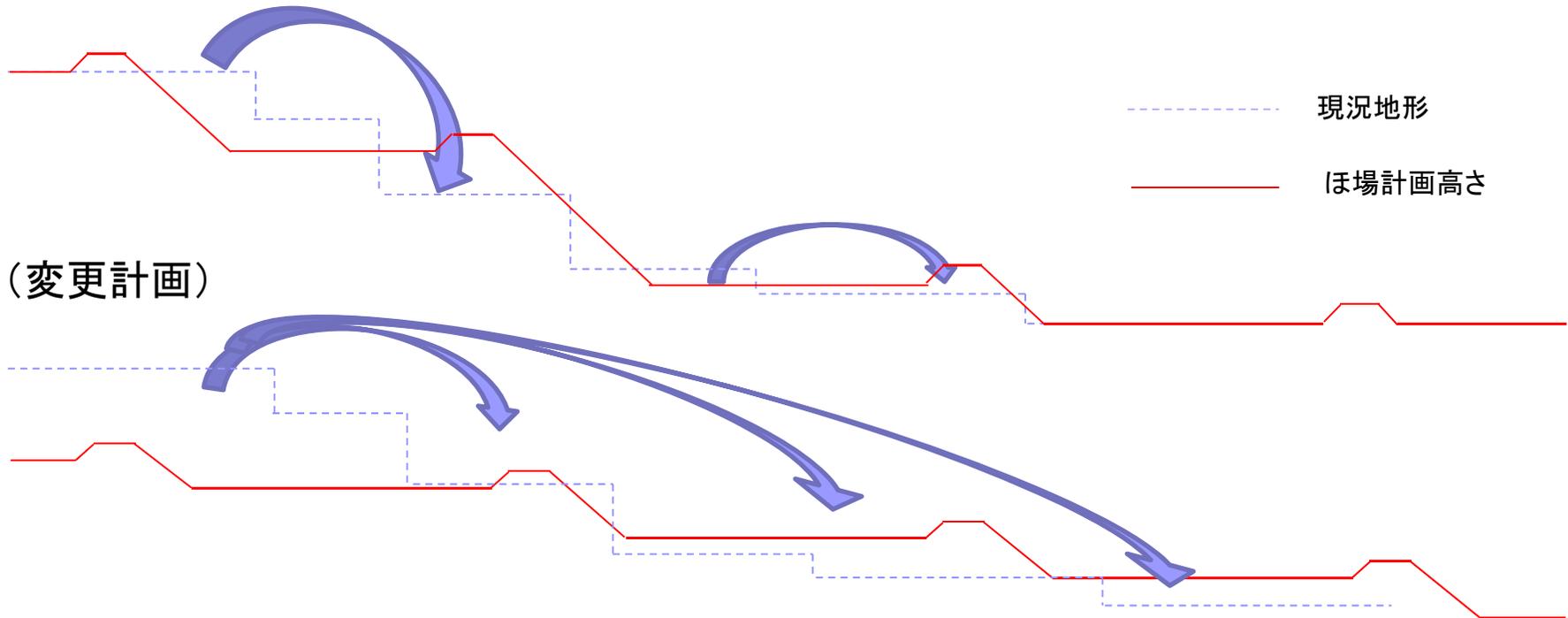
(増額の内訳)

- A-3工区 約0.4億円増
- B-2工区 約0.3億円増
- C-1工区 約0.8億円増

## 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
③	農地の高低差抑制に伴う運土量の増	0.9億円増

(当初)



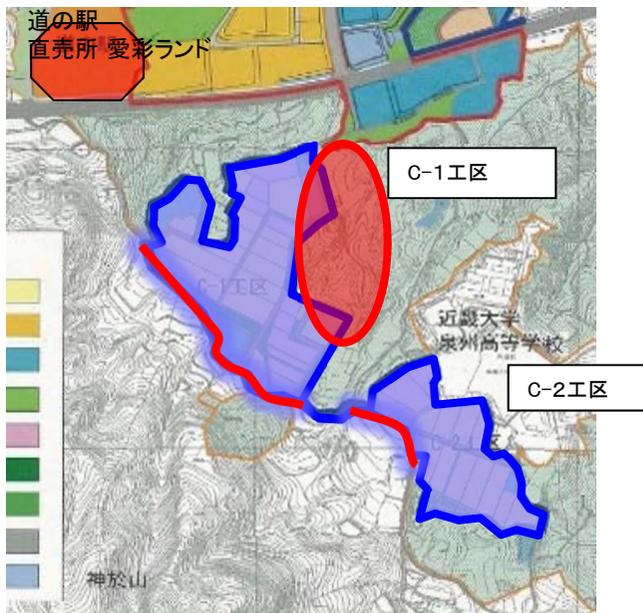
(変更計画)

農地の高低差を抑えるのに、運土量(ほ場の標高差を一定に抑えるため、他のほ場から当該ほ場への土の運搬)が約10万 $m^3$ 発生したため事業費が増となった。

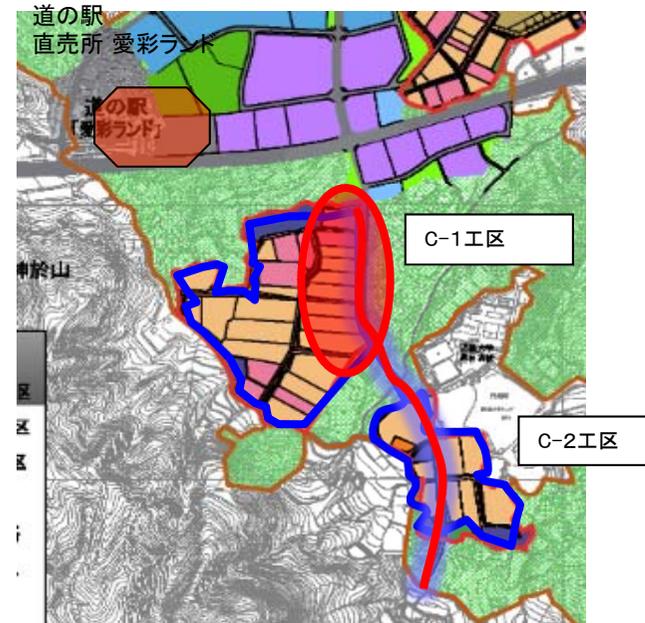
# 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
④	C-1工区の地区拡大による増	0.5億円増

<現計画>



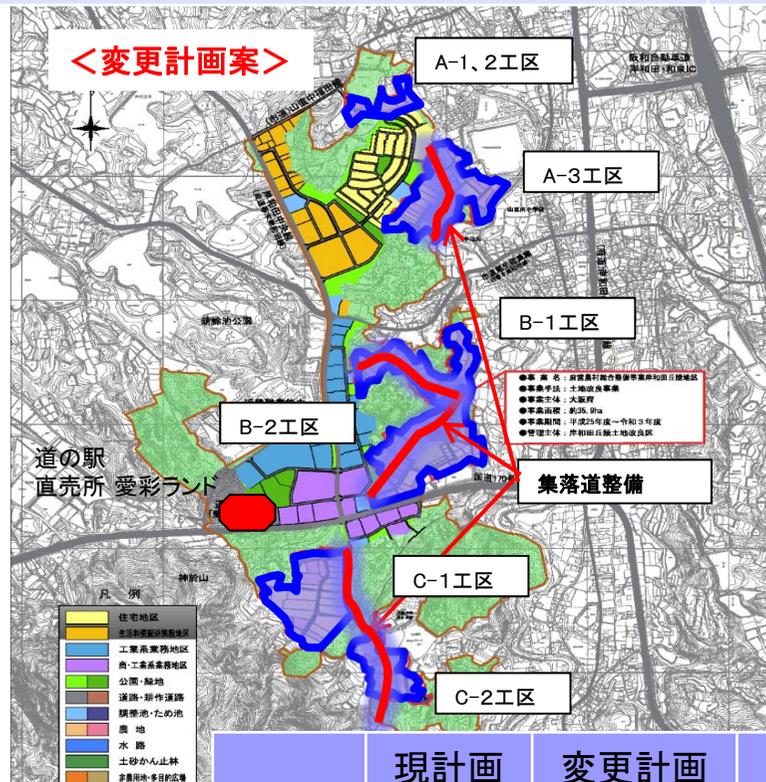
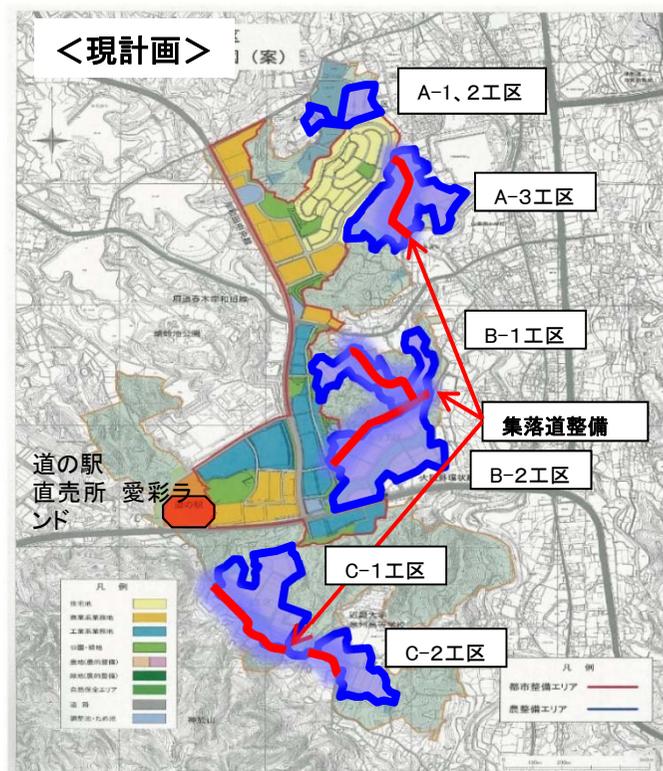
<変更計画案>



・市有地を本土地改良事業の施行区域に編入(約2ha)すると、農地の区画形状が整形化され、効率的な営農が可能となるとともに、効率的に農地整備でき、農業生産性の向上に寄与することから変更を行う。

# 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
⑤	集落道路線変更等による増	0.4億円増



	現計画	変更計画	増減額(百万円)
A工区	439m	347m	▲8.4
B工区	803m	936m	19.0
C工区	550m	770m	28.0
計	1,792m	2,053m	38.6

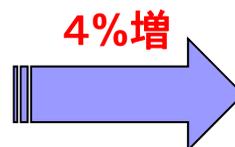
・A、B、C工区において換地計画原案樹立等に伴い、集落道路路線変更等による増である。

## 事業費変動の要因

	変更内容	増減額
⑥	物価変動等(労務資材費、消費税)による自然増等	0.7億円増

例・・・消費者物価指数

平成24年度  
96.1



平成28年度  
100.0

例・・・労務単価

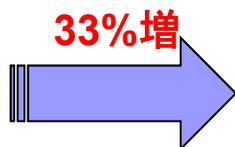
平成25年度(普通作業員)  
14,700円



平成30年度(普通作業員)  
18,000円

例・・・主要資材

平成25年度(生コンクリート)  
12,300円



平成30年度(生コンクリート)  
16,300円

# ○事業の投資効果（費用便益分析）

## ほ場整備における主な効果項目

年効果額	現計画	変更計画(案)
国産農産物安定供給効果	—	39,392千円
作物生産効果	28,440千円	62,096千円

国産農産物安定供給効果は、平成27年に国が追加した効果です。

これは、国産農産物の安定供給に対して国民が感じる安心感の効果です。

作物生産効果は、本地区において区画整理により新たな作物が生産される効果を見込んでおり、今回、地区の作付け計画に沿って効果算定を行った。



## ○事業の投資効果（費用便益分析）

### 集落道整備における主な効果項目

年効果額	現計画	変更計画(案)
営農に係る走行経費節減効果便益	—	3,258千円
作物生産効果	8,296千円	12,358千円

営農に係る走行経費節減効果は、C工区集落道路の路線変更に伴い、見直した効果です。これは路線変更により既設の主要道路までの走行距離が短縮される効果です。

作物生産効果は、本地区において集落道整備の舗装により砂塵の発生を軽減したり、荷傷み防止等により作物の質が向上する効果です。



集落道路整備予定箇所



(集落道路整備イメージ)



## ○事業の投資効果（費用便益分析）

### ほ場整備における主な効果項目

- 強い農業づくりを目指して、意欲的な農家への農地集約、企業参入などを図るため、高収益型農作物への転換を行うことで作物生産効果等が増大しています。  
水ナス：1.4ha ⇒ 4.8ha
- 併せて、事業により畑地かんがい設備を整備させ、高収益な農作物（例えば、水ナスなど）を拡大していく。



## 事業の必要性等に関する視点における判定 (案)

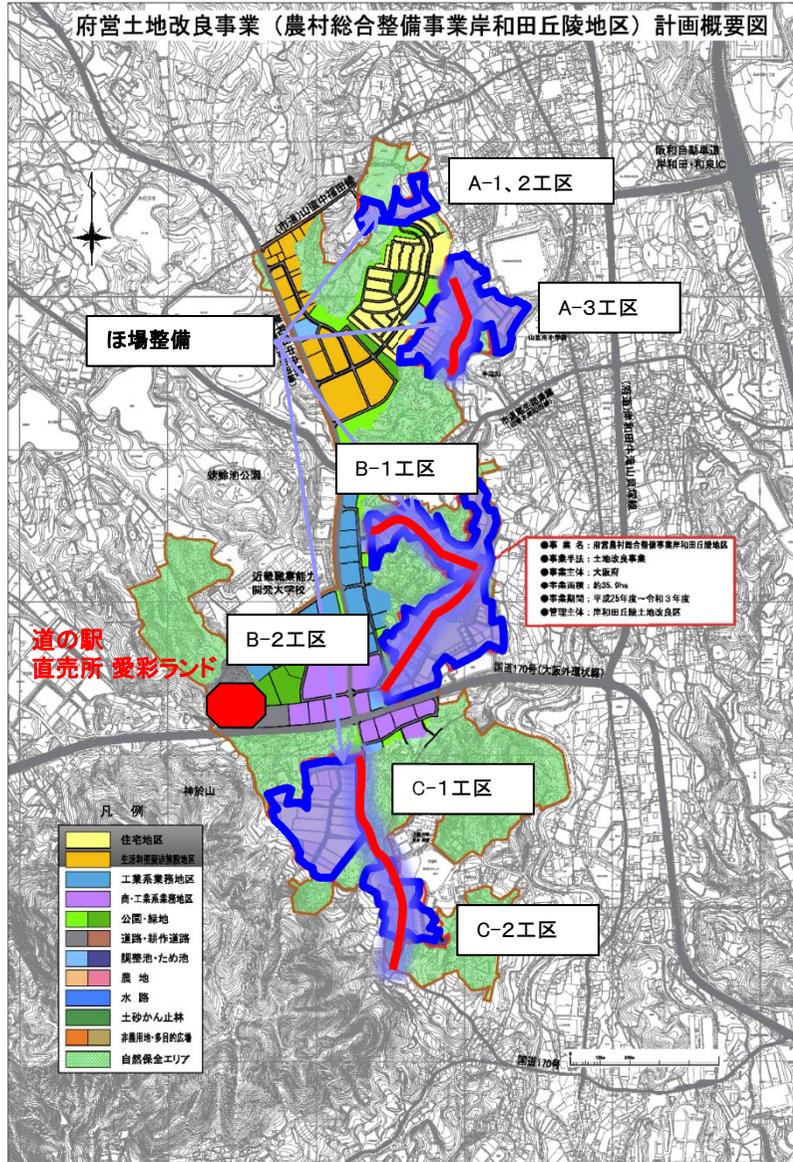
	当初	再評価時
総費用	11.3億円	17.5億円
総便益額	14.0億円	20.7億円 (29.1)
総費用便益比	1.24	1.17 (1.65)

( )は事前評価時点から新たな投資効果等を見込んだ場合

- ・事業目的、必要性に変更無し
- ・事業効果が認められる

⇒ **B/C=1.17(1.65)**

# ○進捗状況



## < 事業進捗 >

・平成30年度末現在 65%

（投資済/全体事業費  
7.7億円/11.8億円）

・工事着手ベース 74%

（換地原案同意に基づき工事着手）

## ○工事状況

A1・2工区：未着手

A3工区：造成工工事中（A=3.7ha）

B1工区：造成工

B2工区：幹線排水路工工事中（L=309m）

C1工区：造成工工事中

調整池工事中、集落道工事中

C2工区：造成工工事中

集落道工事中

## 事業効果

- 本地区は工事实施中から耕作が可能な農地に対し、一時利用地の指定を行い、高収益作物(水ナス等)の生産を行っている。  
→ 近隣の販売額府内トップクラスの大型農産物直売所などへ出荷を行っている。



C-1工区



水ナスの生産状況



愛彩ランド



# 事業効果

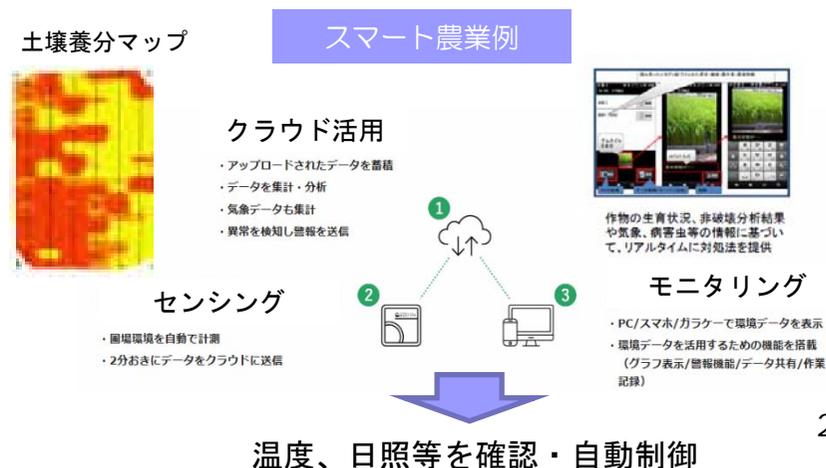
- C-2工区は市有地(農地)の売却(約1.3ha)へ向けて公募開始  
→ 岸和田市では、企業参入を視野にスマート農業の拠点とするため、令和元年度に丘陵地区農業参入補助制度を創設。



C-2工区

市有地(農地)売却地

農業参入補助制度は、丘陵地区の市有地(農地)を購入して、1年以内に高度な施設園芸農業(スマート農業)を導入する者に対し、スマート農業施設整備費に相当する金額の50%を補助するもの。



## 残事業スケジュール

	令和元年度 (平成31年度)	令和2年度	令和3年度
A1,2工区	伐採工	造成工 用水整備工	確定測量
A3工区	造成工 調整池整備工	用水整備工 集落道路工	集落道路工 確定測量
B1工区		造成工 用水整備工	集落道路工 確定測量
B2工区	造成工 調整池整備工 幹線排水路工	用水整備工 集落道路工	集落道路工 確定測量
C1工区	調整池整備工 用水整備工 拡大整備工 集落道路工	拡大整備工 集落道路工	確定測量
C2工区	集落道路工		確定測量

換地処分



## 事業の進捗の見込みの視点における判定 (案)

- 本事業の工事は進捗率約65%(事業費ベース)の進捗であり、順調に進展している。
- 事業参加者から換地計画原案の同意を得ており、地域の期待も大きいことから、残事業も計画的な実施が見込まれる。

## コスト縮減や代替案等の可能性の視点における判定 (案)

- 本事業では、隣接する都市整備エリアにおいて実施中の土地区画整理事業の建設用土の有効活用を図るなど、総事業費は増大しているものの、個々の工種においてコスト縮減を図っている。

**B工区 約20万 $m^3$ 、C工区 約6万 $m^3$ を有効活用 約7.8億円コスト縮減**

## 対応方針(案)

### ○事業継続

#### <判断の理由>

事業の必要性については変化がなく、事業効果が認められる。

また、計画的な事業執行により、事業費ベースに見合った事業進捗も図られていることから、事業効果の早期発現を目指し、事業継続を妥当とする。